



牧野きみの あゆみ

2014.11.6

大正5年7月19日 岐阜市六条 慶善寺の
二男五女の三女として生まれる。

父 承原、母 定子(げん)、長兄 義之、次兄 弘、
姉 露子、二姉 みね子、妹 光子、
末妹 清子

強く育つという 言い伝えから、生まれた時は、弱かった
ので、隣の門に捨てられたそうです
(後の本人談)

6年生の時に、父が亡くなる

この年、9月1日、関東大震災があり、始業式が終わり、
昼食を食べ終わった頃、さやの間において、本堂がギ
ィーギィーと音を立て揺れて怖い思いをした、その音
は、今でも耳に残っている



お転婆で、大人の自転車に乗り、JR岐阜
駅の近くまで、買い物に行き、また、よく
転んで生傷が絶えなかった。

尋常小学校は、すぐ近くにあった。
小さい頃から、歯が悪く親に、嫁入りくら
いのお金がかかったと、言われている。

子どもの頃、裏に蓮畑が、あり、友達の手
代子さんと、ポンッポンッという花の咲く
音を聞いて楽しんでいた。

小学校6年、高等科2年のとき、
富田女学校に編入した。

昭和14年4月 正蓮寺の前々住職の仲人
で、大性寺の長兄 大悟と結婚する





次兄 大信（妙徳寺へ）、てい（法久寺へ嫁入り）、ふみ（法勝寺へ嫁入り）

昭和 15 年 4 月 3 日 大修（大性寺前住）、昭和 16 年 12 月 21 日 大淳と二人の息子に、恵まれるが、当時太平洋戦争の最中で、大悟は、昭和 17 年夏 通信兵として出征する。

昭和 19 年 大悟は、一度帰って来たが、一ヶ月ほど戦友のところを巡り、家には一週間ほどしかもどらず、その後、また出征していく。

この間の昭和 18 年 2 月 13 日 義父 大叡が 66 歳で、往生

昭和 22 年 2 月 23 日 義母 とみも、66 歳で、往生する。

のちに、大悟の戦死の公報が入る。



大悟の戦死から、女手一つで、二人の息子を育て上げ、大性寺を守り、どんなに遠くても自転車に乗り、お参りに行く姿は、ご門徒さんや、周囲の人達の記憶には鮮明に刻まれています。

戦時中、お風呂に入れな近所のこどもたちを大性寺に呼び、お風呂に入れてあげていたことも、ご近所では、よく語られています。

昭和 42 年 3 月 大修が結婚し、2 人の孫に恵まれ、昭和 45 年 3 月には、大淳も結婚、3 人の孫が生まれる

和裁が好きで、嫁入りの着物を縫ってあげたり、あみものを文化祭に出品したり、習字やゲートボール、大正琴、飾り手まり作りなど、趣味も多岐にわたる

ご門徒さんからは、ねえさまと慕われていました。



息子2人、孫5人、ひ孫8人の家族に囲まれ、平成26年1月2日は、
牧野家が全員集合して、お祖母ちゃんを囲み、少し早めの白寿のお祝いもしました。



92歳の、平成20年6月17日 境内で転び、右大腿脊椎
頸部骨折して岐北病院に2ヶ月ほど入院する。

帰宅してきたが、8月21日、庭先で再び転び、骨粗鬆症が
原因で、今度は骨盤骨折し、車椅子生活となる。

大性寺の本堂から、庫裡まで、車椅子生活ができるように、
バリアフリーにするが、家での生活は、一人になるときも多
く、危険なので、平成20年10月23日から、グリーンポ
ートへ入所する。

食べることが大好きで、特に、うなぎ、海老の寿司、海老フ
ライ、みそカツ、煮込みうどん、お餅、お新香を好んで食
べ、入所後も、みんなの誕生日や、大性寺の法要など、毎月
のようにあるイベントの時は、家族と一緒に、マーサ21に
出掛け、買い物や食事を楽しんだり、女4世代で、女子会と
いいながら食事に行ったり、家で、作ってもらう、味噌煮込
みうどんを美味しいな〜と食べる姿は、思い出すと、ほほえ
んでしまうほど、楽しい思い出です。

